

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【ギャラリー】

「阿蘇写友会・写真展」 竹原憲朗

期 間:11月6日(火)~25日(日)

阿蘇在住の会員9人による写真展です。今回は特にテーマを決めず、阿蘇を中心とした風景を多数展示していますので、ぜひご覧ください。

「MELクレヨン画展・花鳥風月」 塚崎聡子

期 間:11月27日(火)~12月9日(日)

菊の花を中心に、クレヨン画とペン画の作品を多数展示します。MELワールドの花鳥風月を、ぜひお楽しみください。

【まちかど資料館】

「西郷どんと菊池一族 Ver2 ~その家族、その教え~」

菊池源吾と奄美群島、新たなる謎に迫る企画展の第2弾

期 間:~11月30日(金)

料 金:大人200円、小中学生100円

開館時間 午前9時~午後5時

※休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)



食の文化祭の様子

【水源食の文化祭】
と き 11月25日(日)
正午~午後2時
参加料 千円(小学生は500円、未就学児は無料)

「地域の味」を見つめ直す
収穫への感謝など節目に合わせた食、生活に変化とけじめをつける「行事食」。身近なものでは、お正月のおせち料理ぐらいになってしまいました。

歴史や経験に培われた「地域の味」を次の世代に伝えるのは大切なことです。水源地域では、行事食や郷土料理を見つめ直す取り組みとして「水源食の文化祭」を毎年開催しており、今年で14回目を迎えます。

家庭料理を持ち寄って語り合う楽しいイベントです。懐かしさを感じるふるさとの食を味わいに来ませんか?

交流の絆 ~姉妹友好都市通信~ ⑦

問い合わせ先 市長公室 ☎0968(25)7252

韓国の友好都市へ市民交流団が訪問

10月5日から8日にかけて、友好都市である韓国の金堤市と清州市を訪問しました。金堤市の「金堤地平線祭り」への参加は、開会式が台風の影響であいにく中止となりましたが、レセプションや会場で大歓迎を受けました。また、セマングム干拓地の視察では、33.9^キの防潮堤による広大な干拓地に期待される将来の構想が説明されました。

次に訪れた清州市では、「第16回清原生命米・大清湖マラソン大会」に市民団より3名が参加。開会式では市民団全員でステージに上がり、友好都市交流をアピールしました。ムニ文化財団地や活版印刷の誕生地あることを物語る古印刷博物館なども視察し、韓国の歴史文化に触れました。



清州市主催歓迎会

今後は両都市の市民団をしすいコスモスマラソンと熊日菊池桜マラソンへ招待し、交流を深める予定です。

ふるさと「緑の便り」
菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先
きくちふるさと水源交流館
☎0968(27)0102

幸せは、喜びの強さではなく
頻度が決める

韓国発見シリーズ⑥
ほんにちは金です



国際観光マネージャー
金 相延

ある研究論文で示された、韓国の青少年は高校時代から既に社会や将来に対する期待を捨て、個人で生き残りの道を模索しなければならぬ状況にある、という内容にショックを受けた。この論文でいう「生死をかけた戦場」とは、「良い大学に入るためにし烈な競争をするところ」と解説されており、実際、韓国の大学生を対象としたあるアンケートでは、81%の学生が自身の高校時代を「生死をかけた戦場」だったと回答している。

なぜ韓国の10代の学生は高校時代を戦場だと考えるのか。それは「良い大学に入れば将来より幸せになれる」という学歴社会の固定観念が強いからだ。韓国人の多くは「人生の選択」に短期大学や専門学校を入れず、有名大学への進学こそ人生の成功の道だと信じている。一方、2017年に国連が発表した世界幸福指数調査において、韓国は155カ国中55位、2015年の47位からさらに順位を下げた。将来の自身の幸せに明確な道筋を持つ韓国人の幸福指数が低いというのは、悲しい事実だ。しかしながら、ある専門家は、